

特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎
2019年度半期(2018.10-2019.3)

こども食堂

活動のご報告

「こども食堂」は市民がつくる学びの場

「こどもが元気で驚きました～」

こども食堂に来た見学者の皆さんは、そう言ってくれます。いつも大きな声が、現場に響いています。初めてこども食堂をつくったときに、私たちは大きな失敗をしました。「経済的に困難なこどもの居場所」という難しい名前を使ったからです。「ビンボーな子おいでー！」と声をかけられて喜んで来る子なんて誰もいません。親だってそんなところに、こどもを通わせたいとは思いません。



こどもたちのことを、私は、夕方から一緒に居場所をつくる仲間だと思っています。そこに来ていただいているボランティアの皆さんも仲間だと思っています。この場は、誰に制約されることのない、「人が自由に会おう」場です。

そしてお互いに「肯定」しあう場です。決して人を不安にさせたり、イジメがおきても見て見ぬふりをしたりしません。誰もが安心できる環境づくりが私たちの仕事です。2015年に県内で初めて「こども食堂」をつくってから4年あまり。当団体は5月から週に5回開催しています。県内では、41箇所にまで広がりました。



この場を支えてくれているのは、ボランティア、地域の皆さん、そして資金提供をいただける皆さんのおかげです。これからも、地域のこどもたちは地域で育ててゆけるように力を貸していただければ幸いです。全ての皆さんに感謝を込めながら。

寺子屋方丈舎
理事長 江川和弥

2019年度上半期 こども食堂

ーこども食堂の利用者は増えていますー

2019年3月時点でのこども食堂の延べ利用者数は388名と、2018年度に比べ大幅な増加が見られています。こども食堂の認知が大人だけではなく、こどもにも広まっています。

家に帰れば「誰もいない」「学校以外でも通える居場所が欲しい」というこどもが、こどもを誘ってきます。

こども食堂に通う子は、「貧困」以外にも、様々な事情を抱えたこどもたちであることをご理解いただきながら、私たちはボランティアのみなさんとともに、参加者を増やしています。



半期毎延べ参加者数

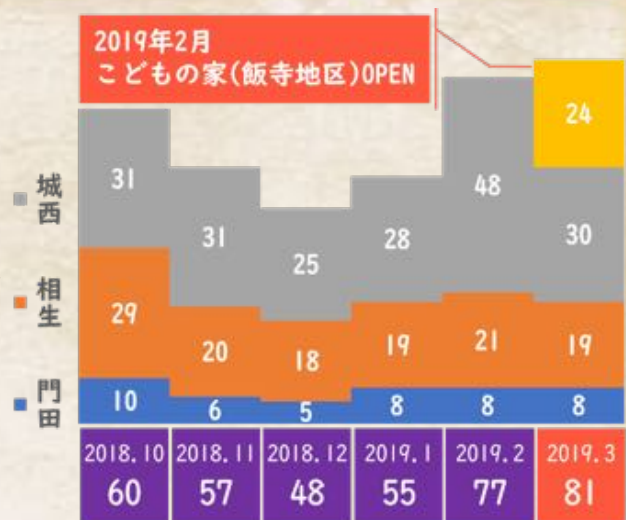
ー「こどもの家」完成ー

会津若松市の飯寺地区にある古民家を一軒、夏から借り受けています。それをこども食堂向けに改修し、2019年2月に完成しました。

壁を取り壊し、床をはり、キッチン、水回りを増設し、電気工事を行いました。改装費は約400万円。会津若松市より50万円の空き家回収補助金、他改修にあたり約300万円の寄付を家主さんからいただきました。

地域のこどもたちが元気になれる場であって欲しい。寄付者や改装に関わった皆さんの思いに感謝しております。

飯寺地区のこども食堂の登録者数は徐々に増え、現在では17名に上ります。



月別延べ参加者数

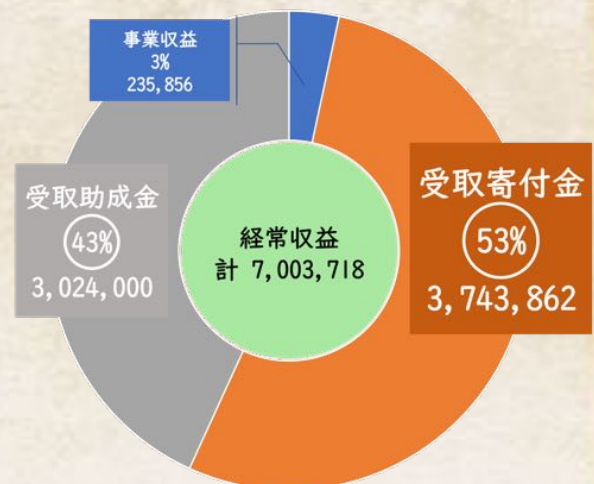
ーお金の使いみちー

私たちの活動収入は総額で700万円あまり。内訳は、助成金が300万円、寄付金が370万円です。寄付のほとんどは「こどもの家」の改修で費やされています。

活動の経費は食材費もさることながら、活動を支える人件費、ボランティアさんの交通費、水光熱費、家賃・施設利用費など、多岐に渡ります。

助成金は永続的に続くわけではありません。寄付金も含めた多様な財源を、私たちは必要としています。

皆さんの力が、こどもの安心につながります。引き続きのご支援をお願いいたします。



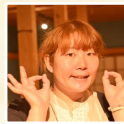
2018.10-2019.3 決算

こども食堂 スタッフ紹介



コーディネーター

大貫 和哉



スタッフ

大竹 佑佳



ボランティアスタッフ

渡部 優徳



ボランティアスタッフの皆さん

9名の高校生をはじめとして、10代から70代までの多様なボランティアスタッフの力で、こども食堂は支えられています。

こども食堂がある理由

ーこども食堂が、こどもたちにできることー

「こども食堂」ってなんで必要なの？

学校や、学童保育があればそれでいいじゃない？たしかに、学校や学童保育、または習い事に行ける人はそれでいいかもしれません。

親が共働きで、夕食の時間に誰も家にいない日がある。

そんな家庭は、私たちが想像するよりも多く存在しています。貧困状態にあるこどもが7人に1人の割合でいるとすると、4、5人に1人ぐらいの割合で、週何回かは家族で食事を取れないこどもたちがいます。

こどもの貧困の問題と、家族だけでは養育が困難な状態にあるこどもと両方の課題に、私たちは向き合っています。県内でも急速に増えるこども食堂は、ひとり親はもとより両親が揃っていても、経済的に困難ではなくとも、必要とされる社会サービスになっています。

大人たちは、「いったい誰がこの問題に向き合うのか？」と責任の所在を確かめようとしします。その背景には、「自分たちの責任ではないよ」という遠い当事者意識が見え隠れします。私たちは、こどもが死んでゆく場面に遭遇します。虐待、いじめ自死、家族での心中。これは、戦後の特別な時期に起きているのではなく、今この日本で起きている出来事です。

この社会に生きる大人として、どう向き合うのか？を問われたときに、ただ自分たちは関係ないではなく、自分たちにもできることがあると思ったみなさんがボランティアや寄付に参加いただいているのだと私たちは感じています。

こどもたちに代わってみなさんに感謝しながら、持続可能な場づくりを現場で努力してまいります。ぜひ、こども食堂に見学においでください。

寺子屋方丈舎
こども食堂スタッフ一同

お金の使いみち

2018年10月から2019年3月の半期に当団体のこども食堂に賜ったご寄付の件数は22件、総額は3,743,862円に上りました。今回の半期分の改修費に加えて、140万円あまりを4月以降負担しております。

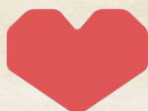
ご寄付全体の45%を占めるのは「こどもの家」の改修費用です。壁の取り壊し、床の張り替え、キッチンの導入等が改修費に当たります。また、25%を占める備品購入費も、ペレットストーブやファンヒーター、食器や調理器具など、こどもの家の設備充実に用いられました。

一方で、食材費は約224,724円で6%と、全体を通してそう多くはなく、費用が抑えられています。これは、地域の皆さまが作る野菜やお米、缶詰などのご寄付をお寄せいただいている結果です。現在は、一人当たり平均300円の食材費で、食事がとることができます。



延べ寄付件数

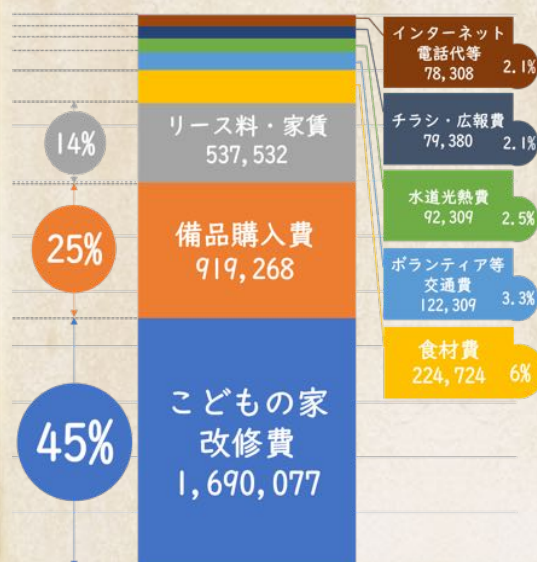
22件



受取寄付金総額

3,743,862円

寄付金使途詳細



みんなが温まる食卓を一食材費一

当団体は、週3回飯寺、城西、相生、門田の各地区でこども食堂を運営しています。2019年5月からは週5回開催予定です。

オープンは16時30分です。学校から直接来るこどももいれば、一旦ランドセルをお家に置いてから、宿題だけ持って来るといふこどももいます。

それからは、宿題を終えて、室内や庭で遊び、学校であった出来事をボランティアの皆さんに話してくれます。

17時頃になると、ボランティアと共に調理を行います。私たち大人は調理を通してたくさんの肯定をこどもたちにおくり続けます。

肯定された子どもは、元気になります。元気な子どもは周りも明るくします。

食事をたくさん食べて、安心して、安全に過ごせる場所がこども食堂です。

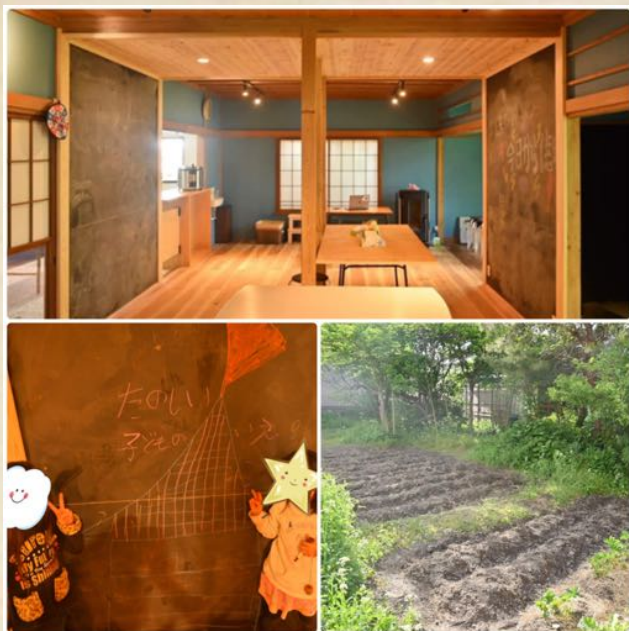


イチからつくるみんなの居場所 ーこどもの家改修費、備品購入費ー

こどもの家改装にあたり、地域で空き家改修を進めている「空き家てらす」の皆さんに相談し、お手伝いいただきながら改修を進めました。

2部屋の間の壁と押入れを取り壊して一つの大きな部屋にし、壁のペンキ塗りや障子の張替えなど自分たちの手で出来る限りで手を尽くし内装を整えました。

また、ペレット式のストーブを導入できたことで、暖かい火が食卓を照らしてくれています。



部屋中央の両端には、チョークで書ける黒板仕様の大きな壁を取り付けました。絵を描いたり、メニューについての相談をしたり、学習に用いるなど、使い道はこどもたちの自由です。

自分を表現する。伝える。失敗してもいいから創造してゆく。こども食堂は、常に新しく何かを考え、実践してゆく場所です。

こどもの家には、テニスコート一面分程の庭があり、そこでは畑作りも進めています。トマト、ナス、人参、大根など、夏野菜や秋野菜を中心にこどもたちと栽培してゆく予定です。

大人に言われて行動するのではなく、自分のことを自分で考えるのが寺子屋方丈舎のミッションです。

寺子屋方丈舎では、自分らしく生きるために何かをつくる。妄想でもいいから、つくってみることを大事にしています。

想像を形にすること。これからの学びは「競争」よりも「共創」。ひたすら教えられることよりも、一緒に考えを合わせる力が求められます。誰もが違っていることに価値があり、違う意見だから人は気づかされる。多様性こそが学びです。

生きる幸せを実現するために、こどもたちの無限のエネルギーを感じてゆきたいです。



これからの寄付へ

こどもたちにとって、安全でありかつ自由で、安心できる居場所は欠かせません。私たちは、できる限り活動の趣旨に沿ったこども食堂の事業運営を行いたいと考えています。誰かの意図に制約されないように、多様な財源を元に運営してゆきます。

中でも寄付は、貴重な財源です。活動の趣旨を理解した一人一人のお気持ちがこどもを支えてくれます。こどもは地域の未来です。家族だけの責任で、こどもを育てなければならないと思うと親は苦しくなり、誰も頼れなくなってしまいます。人を頼る。人に依存する。恥ずかしいことはありません。

むしろ依存できる力が、自立を生むのだと思います。誰もが支えてほしい時に、支えられる社会。時に人を支え、時に支えられる。こんな関係を地域で実践してゆきたいと考えています。皆さんのご支援を、地域の未来の大人であるこどもにつなげてゆきたいと考えています。

寺子屋方丈舎
理事長 江川和弥

ご支援の方法



法人の方 個人の方
郵便振替による寄付

税の優遇措置には当団体の領収書と確定申告が必要です。企業の寄付控除等についてはご相談ください。

《ゆうちょ銀行》

【店名】 八二八

【店番】 828

【口座番号】 2100665

【名義】

特定非営利活動法人寺子屋方丈舎

《記号番号の方はこちら》

【記号】 18200

【番号】 21006651

BANK

法人の方 個人の方
銀行口座振替による寄付

《会津信用金庫》

【店名】 駅前支店 【店番】 010

【口座番号】 1048350

【名義】 寺子屋方丈舎

CARD ▶

個人の方 継続支援可
クレジットカードでの寄付

一度のご寄付の他、継続的なご支援もお選びいただけます。QRコードを読み込むか、「方丈舎 寄付」と検索してご確認ください。



2019年度寺子屋方丈舎 助成団体一覧

大東建託グループみらい基金 / 会津若松市子ども未来基金事業
ふくしま未来研究会 / 福島民友愛の事業団 / 明治安田生命

特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎

【事務局】 〒965-0871 福島県会津若松市栄町2-14 レオクラブガーデンスクエア5階
【お問合せ】 TEL: 0242-93-7950 MAIL: houjou0228@gmail.com



【子ども食堂】 @terakoya.syokudo

【フリースクール/通信制高校】 @houjousyaibasho



寺子屋方丈舎

